

緑が丘の台地にて

甲斐市立双葉中学校
学校だより 第16号
平成29年 3月24日
発行 長田 靖

第65回卒業証書授与式

今年が月曜日が式当日となったため、前日の日曜日を登校日とし、式の予行と会場づくりにあてました。

そして今年も、儀式らしい厳粛な空気の中にあたたかな雰囲気を感じさせる卒業式でした。

式場はきれいに整えられ、在校生は卒業生を送り出す気持ちをつくり、そして卒業生は3年間の充実した中学校生活を振り返ると同時に、自ら選んだ道へ進む自覚を表現してくれました。出席された保護者の皆さんから「とてもいい式でした」と感想が語られ、来賓の方々からは「立派な式、感動しました」とお褒めの言葉を頂戴しました。



私は式辞の中で、かつて放映された電力会社のCMを紹介し、義務教育を終えることの意味について話しました。『…別の言い方をするなら、それは社会から与えられ、保護される側から、社会を作り上げる者としての立場に立つことです。(中略)中学校の延長線上で学ぶのではなく、社会の一員としての自分の能力をいっそう磨くために、よりレベルの高い勉学に励むのだという自覚を持ってほしい』。

また、柳本教育委員様から教育委員会の告辞、甲斐市を代表して長田福祉部長様、市議会より保坂議員様、志村PTA会長の皆さまから励ましの祝辞を頂戴しました。

在校生による「送ることば」では、雨宮くんが代表して送辞を読み『旅立ちはいくつもの出会いを生み出します。明日へ、新しい大地へ大きく飛び立ってください』、1年生が「変わらないもの」を、2年生が「あなたへ旅立ちに寄せるメッセージ」をそれぞれ歌い、卒業生を送りました。卒業生からは「旅立ちのことば」の中で「ひとつの朝」、「明日へ」、「時を越えて」の3曲の披露があり、仲間や先生方、保護者への感謝の呼びかけが感動を呼びました。代表して栗原くんが読み上げた答辞『今まで支えてもらった分、人を支えることができる人間に成長することを、ここにお約束します』も、素晴らしい内容でした。最後の「群青」の合唱は、卒業生の込められた思いを体育館中に響かせました♪

巣立っていった145人には、自分の可能性を信じ、困難にめげず、失敗や挫折にへこたれず、未来に向かって歩んでもらいたいものです。そして、送り出した私たちも、また新たな歩みを始めて行こうではありませんか。



平成28年度修了式 ご支援・ご協力に心より感謝申し上げます

卒業した3年生が担当していた清掃場所を、1・2年生が引き継いでいます。職員日直が記す日直日誌に、先日「3年生の清掃場所を担当する1年生が、とてもよく掃除をします。双葉中の良き伝統の継承を感じます。」とありました。さらに翌日には、「3年の清掃分担場所を担当する2年生。とても丁寧に一生懸命な姿に感心させられました。すばらしい働きぶりでした。」と記されていました。

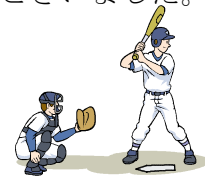
特に2年生がぐっと成長し、存在感を増してきたように感じられます。卒業式の準備で先頭に立って頑張り、卒業生から引き継いだ部活動にもいっそう熱心に励んでいる様子がうかがえます。生活面の課題を克服しながら、これからの主役として、双葉中を力強く引っ張ってくれると期待しています。

山梨めぐりの準備に取り組んでいる1年生の生活する校舎4階は、いつも明るく元気な雰囲気包まれています。いよいよ先輩としての姿を見せる 때가迫っています。いっそう自分を磨き、新入生の良い手本となることを望まれます。

さて、本日で平成28年度の諸活動が終わり、残すは28日（火）の離任式だけとなりました。この1年間、保護者の皆さまには諸行事に積極的に参加くださり、いろいろな面でご支援とご協力をいただきました。授業参観に毎回足を運んでいただいたり、学園祭や合唱祭で激励をくださったり、親子奉仕作業などのPTA活動にも熱心に取り組んでいただき、多くの成果をあげることができました。このことは私ども職員にとりましても、大きな励みとなりました。心より感謝申し上げますと共に、29年度も変わらぬご支援・ご協力をお願い致します。

今年度の学校だよりも、今回で最終号となりました。生徒の様子や学校の情報をお伝えできればと考え、細々と続けて参りました。拙い文にお付き合いいただきありがとうございました。

人としての力を高めていく…



球春到来、センバツ高校野球が19日（日）に開幕しました。今までで最も早い開幕と聞きました。残念ながら地元山梨からの出場はありませんが、強豪校の出場や注目を集めるスラッガー、21世紀枠など話題豊富な大会です。開会式の選手宣誓は、作新学院高校（栃木県）の添田真聖主将が行いました。下にその全文を載せます。

宣誓

ここにいる私たちは 高校野球のひたむきさと高校生らしさを認められ 選抜されました
仲間と共に いくつもの困難を乗り越え 今、この場所に立てることを誇りに思います
選ばれた自覚と 最後まで全力を尽くす責任を持ち
支えてくれる地域の方々への感謝を忘れず戦います
先輩方が築いてくれた この素晴らしい大会を私達が継承し
人としての力を高めていく大会にすることを誓います

作新学院は昨年夏の優勝校です。プレッシャーは大きいでしょうね。添田主将は周囲に支えられたこと、先輩のように成長することを言葉に詰めて宣誓を行いました。一つ一つの言葉を丁寧に、心を込めて発していることがテレビの中継からも伝わってきました。終わった後の表情も若者らしく爽やかでした。